

## 富士紀行 (45) 富士山麓の旧軍史跡探訪 (その2)

### ④ 陸軍少年戦車兵学校跡 富士宮市上井出 2317-1

千葉陸軍戦車学校生徒隊を発展的に解消して、陸軍少年戦車兵学校が富士郡上井手村に1942年8月創設された。53万平方メートルの敷地に大小70棟の建物が建築された。15～18歳の少年が、全国から選抜（1期生の場合55倍という競争率）され、訓練を受けた。“赤タン”の襟章を付けた陸軍生徒の身分である。若獅子、豆タンクの愛称を持って空の若鷲（少年航空兵）と並んで、国軍の双璧と称えられた。

1965年に材料廠跡に慰霊碑「若獅子の塔」（前面に獅子の像を飾り、碑面に「国のためのちささげし人々のことを思えばむねせまりくる」と謹刻してある。）、1984年には「若獅子神社」も建立され、戦車9連隊戦友の努力により、サイパンから若獅子の英霊と共に帰還した97式中戦車（チハ車）も移設・修復・展示されている。在籍者は、特別幹部候補生500名を含み4210名である。

神社の由来を神社発行のしおりから抜粋する。「若獅子神社は、さきの大東亜戦争において若獅子の名のもとに勇戦奮闘悠久の大義に殉じた陸軍少年戦車兵六百有余と教官の御霊を慰霊、顕彰するため、昭和四十年建立した若獅子の塔を起源とし、以来毎年慰霊祭を執り行い英霊の奉祀奉斎に努めてきたが、永久祭祀の道を開くため富士山本宮浅間大社・靖国神社の御教示のもとに、建塔二十年を期して昭和五十九年十月十日神社を創建しました。富士山麓は、往昔より、武人錬成の由緒深く史跡と名瀑に富むところであり、憂国の至情に燃えた少年達の修養練武の地として昭和十七年ここに学校を開校しました。生徒達は、霊峰を父と仰ぎ、また母と慕い、文武の道に励み、国家民族の危難に際して七生報国、率先国難に赴きその赤誠を捧げた若獅子の精神は長く後生に継承されるべきものであります。

（中略）若獅子とは若き情熱に燃え、純忠一途にして勇猛果敢な活躍を遂げた少年戦車兵の愛称であり、これを神社の称号としました。」

参考までに、富士学校機甲科部は、職員を含む、幹部初級課程と生徒課程の学生約100名が毎年研修をしている。（参考：神社のしおり、富士学校機甲科部作成の資料）

### ⑤ 神風特別攻撃隊兵士像 裾野市御宿

1944年10月25日第一次神風特別攻撃隊大和隊13名がレイテ沖で体当たり攻撃を敢行、その中に富岡村御宿出身の勝又富作軍曹（20歳、戦死後少尉）がいた。また、浜松師範に在校中の富岡村今里出身の勝又武彦は学徒出陣し、1945年5月4日神風特別攻撃隊として沖縄に出撃、散華した。享年23歳。

この二人の御霊の安らかならんことを願って、富岡村生霊神社（忠魂碑）境内に富作少尉の立像と武彦少尉（？）の胸像が建立された。

(参考：史跡が語る静岡の15年戦争)

⑥ 陸軍歩兵第一連隊八勇士の碑 演習場最南端の演習場外（笹塚）

1933年（昭和8年）7月2日、甲府の歩兵第49連隊との遭遇戦の実働演習中の歩兵第一連隊（東京赤坂）の兵士8名が脱水症状で死亡するという痛ましい事故が惹起した。殉職した8名の慰霊のための 碑が建立された。

(参考：史跡が語る静岡の15年戦争)

⑦ 北・東富士演習場内の遺跡・記念碑等

明治天皇行幸記念碑（畑岡）、東宮殿下御野立所（大塚）

皇太子殿下ご来園記念碑（胎内神社）

黒トーチカ(2月台)、旧軍トーチカ（畑岡）、

大野監的（大野原）、岩山監的（二の台付近）今はないが、畑岡に望楼

地名としては、重砲台、砲兵森等